

地域の笑顔を守るため



消防団は、地域防災のリーダーとして地域に密着し、住民の安全と安心を守っています。

その歴史は古く、江戸時代に町人で構成されていた町火消が今の消防団の前身といわれています。宇和島では町火消が無くなった後も、その流れを組んだ消防組織が住民たちで作られていたそうです。昔から地域の人たちが、自分たちの暮らしの安全を守り続けてきました。

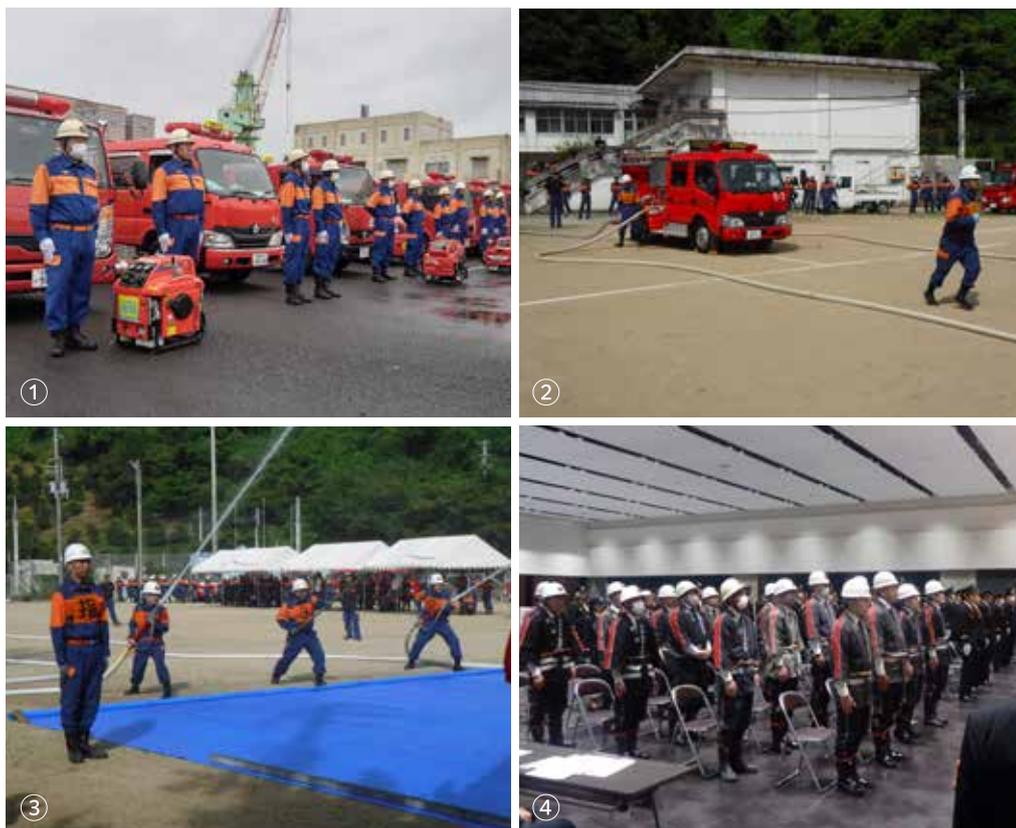
しかし消防庁の統計によると、昭和20年代には全国で200万人を超えていた消防団員は、担い手となる若者不足や団員の高齢化などにより年々減少し、平成2年度に100万人を割り込み、令和6年度には74万人余りとなっています。本市も例外ではなく、定員数に達していない地域もあります。地域の安全安心を守ってきた消防団をどう維持していくかが課題となっています。

今年1月に大きな地震が発生した能登半島は、9月にも豪雨により大きな被害を受けました。県内でも4月に豊後水道を震源とする地震が発生し、8月には南海トラフ臨時情報（巨大地震注意）が発表されるなど、地域防災の重要性は一層高まっています。

今回は、そうした時代の流れに合わせながら、地域で暮らす人の笑顔を守っていくため、大きな役割を担う消防団について特集します。

暮らしを守る消防団

地域の安全・安心を守ります



①全団員の半数が一堂に集まる出初式。②③消火活動の基礎（指揮、規律、機械器具の取り扱い）を身に付ける操法訓練。④新たな団員を迎え退団者を送る消防団入退団式。

消防団とは

消防署と協力し火災を始めとするさまざまな災害対応や予防啓発などを行う消防機関の一つとして、すべての市町村に設置されています。

令和6年4月1日時点の全国の消防団数は2174団、団員数は74万6681人で、本市の団員数は1894人です。

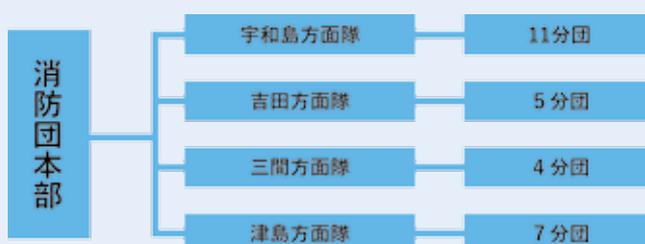
消防署員と消防団員の違い

消防署員は常勤の地方公務員で、常時消防業務に専念しています。消防団員は非常勤特別職の地方公務員で、普段はそれぞれの仕事や家事などを行っていますが、火災や災害が起きれば現場へ駆け付けます。宇和島市民約6万7千人の命を守るために、消防署員だけでは手が届きにくい部分を消防団員が補っています。

今回は、地域の安全・安心を守る4人の消防団員に話を聞きました。

宇和島市消防団の構成

宇和島市消防団は、本部の下に地区ごとの4つの方面隊があり、各方面隊からそれぞれ分団に分かれ、分団はさらに部に分かれて活動しています。このように、消防団は地域に密着し、まちの安全・安心を守っています。



団員同士 助け合いながら 地域を守る

宇和島市消防団

三間方面隊 第2分団第3部

班長 山本大介さん



普段は浄化槽の管理や点検などの仕事をしています。出身は西条市ですが、結婚を機に妻の地元の宇和島市へ来ました。まだ知り合いが少ないときに近所の人に声をかけてもらって消防団に入ったのですが、そのおかげで地域とのつながりがたくさんできました。

消防団の活動は火災対応だけではなくありません。大雨の際は土砂の流入の恐れがある場所に土のうを設置したりもします。近くに住ん

でいる人から「ありがとう」と言ってもらったこともありました。自分たちが見回ることでも少しでも地域の人たちの不安が無くなればうれしいです。

平成30年7月豪雨では三間町も被害がありました。それ以上吉田町の被害が甚大なことを知り、自分たちでできることはないかと吉田の災害現場に向かいました。想像を超える被害の大きさに圧倒されながらも、家から動けずにいるお年寄りを背負い一緒に避難したことが今も心に残っています。

消防団活動と聞くと「よく分からない」「自分にはできない」と考える人もいます。最初はみんな技術や知識がないところから始まり、先輩団員に少しずつ教わりながら活動しています。また普段はみんなそれぞれ別の仕事をしているので、災害時にどうしても出動できないこともあります。そのときはできる人が出動し、助け合いながら活動しています。地域に貢献したい気持ちがある人は、少しずつでもいいので一緒に活動してみませんか。



子どもたちに 楽しく防災を 伝えていきたい

宇和島市消防団

宇和島方面隊 本部

部長 梅田 菊江さん



普段は家事と家族の介護をしています。仲の良い人から「一緒にやってみない」と誘われ、消防団に入って13年目になります。

消防団には私のように女性の消防団員もいます。男性団員のように消火活動に当たることはせず、火災や災害を未然に防ぐことを目的に、住民への防火・防災指導や啓発を行っています。現在は保育園や地域の愛護班活動に出向き、子どもたちへの啓発活動を

主に行っています。消防車に触れて子どもたちが喜んでくれるなど、一緒に楽しみながら防火・防災を知ってもらうことにやりがいを感じています。

活動の中で心に残っているのは、平成30年7月豪雨で避難所を訪れたときのことです。避難者の中に「これまで相談しにくかったことも、女性だから話すことができた」と言ってくれる人がいて、消防団を続けてきてよかったですと思いました。

また活動の中で応急手当指導員の資格を取得したので、災害時はもちろん家族や身の回りの人に何かあったときに生かしたいと思っています。さらに今年度は小型の油圧ショベルの資格を取得し、災害時の土砂撤去などに生かしたいと考えています。

消防団に入ってみたくいけど、仕事や家庭と両立できるか不安に思う人もいると思います。すべての行事に参加する必要は全く無理のない範囲で活動できるので、気軽にたくさんの方に参加してほしいです。





平成30年7月豪雨 —消防団の活動—

自分の命や家族を
守ることが
地域の安全や安心
につながる

宇和島市消防団吉田方面隊

隊長 平山裕さん



消防団には地元の先輩に誘われ
入団して24年目になります。

平成30年7月豪雨のときは吉田
方面隊の副隊長として、吉田支
所で各分団からの報告を受けて被
害状況を把握し、指示を出してい
ました。発災から3日間、団員た
ちは避難誘導や負傷者の救助、行
方不明者の捜索などに当たしまし
た。発災から4日目以降は、団員
たちは道路の土砂撤去や孤立地域
への食料運搬などを行いました。



代々受け継いできた園地でかんきつを作りながら、消防団活動を続けてきた平山さん。



昼夜問わず最前線で活動する団員の中には、自宅が被災した人も多くいました。私も自宅近くの川が氾濫し、土砂が流入して家の床上まで浸水しましたが、発災から2週間は吉田支所で各分団への指揮を続けました。

現在は豪雨災害の経験を生かし、大雨などで災害リスクが高まっているときは、危険箇所の見回りなどをしています。水害は発生する前にある程度予測し対応することができませんが、地震は予測が難しいです。今年に入り大きな地震が続いているので、将来起こるであろう南海トラフ巨大地震にも対応できるようにしていきたいです。

地域防災の要である消防団は、災害が起きたときは急いで現場に駆け付けなければなりません。まずは自分や家族の命を守ることが大切にしてほしいです。自分の周りの安全を確認し、心置きなく出動できることが、多くの命を救うことにつながるのではないかと思います。



現在は補修された、平成30年7月豪雨で氾濫した自宅近くの川。土砂が流入し浸水した跡がシャッターに残っている。

持続可能な 消防団へ

宇和島市消防団

団長 梶田 浩さん



消防団には20歳で入り、今年で38年目になります。入団したきっかけは地域の人に声をかけてもらったことでした。そのころは消防団の担い手となる若者が多く、消防団に入りたくても入れない人がいたので、消防団に入ることはとても名誉なことだったそうです。しかし現在は団員の高齢化が進み、担い手となる若者が少なく団員数が減少しています。

一方で水害での出動が増えるなど、自然災害が頻発する現在、消防団の重要性は高まっています。そのため、地域の安全・安心を守る消防団活動をこれからも持続していくことが必要です。

このような中、活動内容や制度も時代に合わせ変化しています。昔に比べて火災件数が減少傾向にあり、現場経験を積む機会が減っているため、より実践的な訓練の機会を増やし、消火技術やノウハウを習得できるようにしています。訓練では身体を動かすことだけでなく、訓練内容についてのディスカッションや「大丈夫か」と声を掛け合うなど、団員同士のコミュニケーションも大切にしています。普段から意思疎通を図り信頼関係を築くことが、災害現場で多くの命を守ることにつながります。また機別団員といっ

て、それぞれの能力やメリットを活かしながら特定の消防団活動や時間の許す範囲で活動する制度もあります。例えば、長年続けた消防団を引退した人が訓練などに参加出来なくても、火災が起きれば駆けつけ消火活動にあたるなど、豊富な経験を生かして引き続き消防団の活動に携わることができます。

消防団活動は、さまざまな年代や職種の団員と交流でき、地域とつながるきっかけにもなるので、若い人たちに「入団して良かった」と感じてもらえたらうれしいです。若い世代が気軽に参加しやすく、ベテラン団員がまた力を貸しやすいなど、消防団も時代に合わせて変化していくことが大切になってくると思います。今後も地域の安全・安心を守る消防団を持続していくために尽力していきたいです。

消防団員募集

消防団活動は、安全・安心を守るだけでなく地域のことを知る良いきっかけにもなります。入団を希望する人は危機管理課または消防団までご連絡ください。

■対象

▷市内に住むか勤務する18歳以上の人

■報酬

▷年額 36,500円～(階級により異なります)

■手当

▷出動(火災、災害、行方不明者捜索など) 4,000円～/回
▷訓練・警戒など 3,500円～/回

■補償

▷消防団活動中に負傷した場合の補償制度があります。



問 危機管理課復興まちづくり推進係 ☎49-7083

城南分団

大切な人や
大好きなまちを
守るために

消防団員は、消火栓はどこにあるか、誰がどこに住んでいるかなど地域の事情を熟知した地域防災のリーダーです。
また、消防団での幅広い年代、さまざまな職種の人たちとの交流は視野を広げ、地域の人たちとの絆を深めることにつながります。
消防団は「いざという時に大切な人や自分のまちを守るようになりたい」という思いを形にし、みんなが笑顔で暮らせるまちづくりに重要な存在です。

これからも「自分たちのまちは自分たちで守る」という思いを持って地域のために活動する人が増えるように、みんなで応援していきましょう。